

a, b を $0 < a < 1, 0 < b < 1$ を満たす実数とする。平面上の三角形 ABC を考え、辺 AB を $a : 1-a$ に内分する点を P 、辺 BC を $b : 1-b$ に内分する点を Q 、辺 CA の中点を R とし、三角形 ABC の面積を S 、三角形 PQR の面積を T とする。

- (1) $\frac{T}{S}$ を a, b で表せ。
- (2) a, b が $0 < a < \frac{1}{2}, 0 < b < \frac{1}{2}$ の範囲を動くとき、 $\frac{T}{S}$ がとりうる値の範囲を求めよ。
- (3) p, q を 3 以上の整数とし、 $a = \frac{1}{p}, b = \frac{1}{q}$ とする。 $\frac{T}{S}$ の逆数 $\frac{S}{T}$ が整数となるような p, q の組 (p, q) をすべて求めよ。

< '21 東北大 >

【戦略】

- (1) 幾何的に処理することもできますが、一番明確なのは

共通角を共有する 2 つの三角形について
面積比 = 辺積比
が成り立つ

を用いることでしょうか。

例えば、 $\frac{\triangle APR}{\triangle ABC}$ という比を考えてみます。($\angle A$ を共有)

$$\frac{\frac{1}{2}|\overrightarrow{AP}||\overrightarrow{AR}|\sin A}{\frac{1}{2}|\overrightarrow{AB}||\overrightarrow{AC}|\sin A} = \frac{|\overrightarrow{AP}||\overrightarrow{AR}|}{|\overrightarrow{AB}||\overrightarrow{AC}|}$$

と面積の比は「辺の積の比」(私はダジャレで辺積比と呼んでいます)に読み替えることができ、条件から $|\overrightarrow{AP}| = a|\overrightarrow{AB}|, |\overrightarrow{AR}| = \frac{1}{2}|\overrightarrow{AC}|$ となるため、即座に $\frac{\triangle APR}{\triangle ABC} = \frac{a}{2}$ と分かります。

残りの 2 つの角っこの $\frac{\triangle BQP}{\triangle ABC}, \frac{\triangle CRQ}{\triangle ABC}$ についても同様です。

- (2) a, b は独立 2 変数です。

$\frac{T}{S}$ の式は (1) から $ab - \frac{a}{2} - \frac{b}{2} + \frac{1}{2}$ となります。

ここでは、経験に基づく発想として「変数を 1 カ所に集める」という工夫をします。

整数問題などでよく使う(実際 (3) でも使うのですが)変形で

$(a - \frac{1}{2})(b - \frac{1}{2}) + \frac{1}{4}$ と見てやると、 a, b がそれぞれ 1 カ所ずつで独立に動いていますので、この後は手なりに処理ができるでしょう。

- (3) (2) の誘導により、 $\frac{S}{T} = 3$ と特定できてしまいます。

この後も約数の拾い上げによって処理する典型的な整数問題です。

【解 1】

$$\begin{aligned} (1) \frac{\triangle APR}{S} &= \frac{\frac{1}{2}|\overrightarrow{AP}||\overrightarrow{AR}|\sin A}{\frac{1}{2}|\overrightarrow{AB}||\overrightarrow{AC}|\sin A} \\ &= \frac{a|\overrightarrow{AB}| \cdot \frac{1}{2}|\overrightarrow{AC}|}{|\overrightarrow{AB}||\overrightarrow{AC}|} \\ &= \frac{a}{2} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \frac{\triangle BQP}{S} &= \frac{\frac{1}{2}|\overrightarrow{BQ}||\overrightarrow{BP}|\sin B}{\frac{1}{2}|\overrightarrow{BC}||\overrightarrow{BA}|\sin B} \\ &= \frac{b|\overrightarrow{BC}| \cdot (1-a)|\overrightarrow{BA}|}{|\overrightarrow{BC}||\overrightarrow{BA}|} \\ &= b(1-a) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \frac{\triangle CRQ}{S} &= \frac{\frac{1}{2}|\overrightarrow{CR}||\overrightarrow{CQ}|\sin C}{\frac{1}{2}|\overrightarrow{CA}||\overrightarrow{CB}|\sin C} \\ &= \frac{\frac{1}{2}|\overrightarrow{CA}| \cdot (1-b)|\overrightarrow{CB}|}{|\overrightarrow{CA}||\overrightarrow{CB}|} \\ &= \frac{1-b}{2} \end{aligned}$$

ゆえに、

$$\begin{aligned} T &= S - (\triangle APR + \triangle BQP + \triangle CRQ) \\ &= S - \frac{a}{2}S - b(1-a)S - \frac{1-b}{2}S \\ &= \left(ab - \frac{a}{2} - \frac{b}{2} + \frac{1}{2} \right) S \end{aligned}$$

これより、 $\frac{T}{S} = ab - \frac{a}{2} - \frac{b}{2} + \frac{1}{2} \dots$ 罫

$$(2) \frac{T}{S} = \left(a - \frac{1}{2} \right) \left(b - \frac{1}{2} \right) + \frac{1}{4}$$

a, b は $0 < a < \frac{1}{2}, 0 < b < \frac{1}{2}$ の範囲を独立に動くので

$a - \frac{1}{2}, b - \frac{1}{2}$ は $-\frac{1}{2} < a - \frac{1}{2} < 0, -\frac{1}{2} < b - \frac{1}{2} < 0$ の範囲を独立に動く。

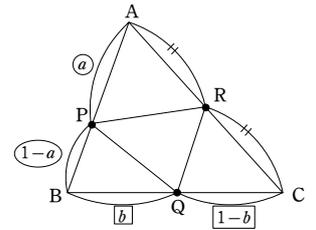
ゆえに、 $(a - \frac{1}{2})(b - \frac{1}{2})$ がとり得る値の範囲は

$$0 < \left(a - \frac{1}{2} \right) \left(b - \frac{1}{2} \right) < \frac{1}{4}$$

であり、辺々 $\frac{1}{4}$ を加えると

$$\frac{1}{4} < \left(a - \frac{1}{2} \right) \left(b - \frac{1}{2} \right) + \frac{1}{4} < \frac{1}{2}$$

以上から、 $\frac{T}{S}$ がとり得る値の範囲は $\frac{1}{4} < \frac{T}{S} < \frac{1}{2} \dots$ 罫



(3) p, q は 3 以上の整数であるという条件から

$$0 < \frac{1}{p} \leq \frac{1}{3} < \frac{1}{2}, 0 < \frac{1}{q} \leq \frac{1}{3} < \frac{1}{2}, \text{ すなわち } 0 < a < \frac{1}{2}, 0 < b < \frac{1}{2}$$

$$(2) \text{ より, } \frac{1}{4} < \frac{T}{S} < \frac{1}{2} \text{ で, } 2 < \frac{S}{T} < 4 \text{ となる。}$$

題意である $\frac{S}{T}$ が整数となるためには $\frac{S}{T} = 3$ である必要がある。

今,

$$\begin{aligned} \frac{T}{S} &= \frac{1}{pq} - \frac{1}{2p} - \frac{1}{2q} + \frac{1}{2} \\ &= \frac{pq - p - q + 2}{2pq} \end{aligned}$$

なので, $\frac{S}{T} = \frac{2pq}{pq - p - q + 2}$ となるため $\frac{2pq}{pq - p - q + 2} = 3$ を得る。

これを整理すると

$$pq - 3p - 3q + 6 = 0$$

$$(p-3)(q-3) = 3$$

$p-3 \geq 0, q-3 \geq 0$ であり

$$(p-3, q-3) = (1, 3), (3, 1), \text{ すなわち } (p, q) = (4, 6), (6, 4)$$

逆に (p, q) がこれらの値となる時 $(a, b) = \left(\frac{1}{4}, \frac{1}{6}\right), \left(\frac{1}{6}, \frac{1}{4}\right)$ となり, $\frac{S}{T} = 3$ を得るため題意を満たす。

以上から, 求める p, q の値の組は

$$(p, q) = (4, 6), (6, 4) \dots \text{ 罫}$$

【戦略 2】(2) について

$\frac{T}{S} = ab - \frac{a}{2} - \frac{b}{2} + \frac{1}{2}$ を $\left(a - \frac{1}{2}\right)\left(b - \frac{1}{2}\right) + \frac{1}{4}$ と見れなかった場合ですが, 愚直に 1 文字を固定して 1 文字ずつ動かすという「予選決勝法」によって処理すればよいでしょう。

【解 2】(2) の別解

$\frac{T}{S}$ の式について, まずは a を固定して b だけを動かす。

$$\frac{T}{S} = \left(a - \frac{1}{2}\right)b - \frac{1}{2}a + \frac{1}{2} \quad (=f(b) \text{ とおく})$$

$0 < a < \frac{1}{2}$ より, $y=f(b)$ は by 平面で傾きが負の直線を表すため,

$$0 < b < \frac{1}{2} \text{ の範囲では } f\left(\frac{1}{2}\right) < f(b) < f(0)$$

予選通過者

$$\text{すなわち, } \frac{1}{4} < \frac{T}{S} < -\frac{1}{2}a + \frac{1}{2} \dots \text{ ①}$$

決勝戦

次に, 固定していた a を $0 < a < \frac{1}{2}$ で動かすと, $-\frac{1}{2}a + \frac{1}{2} < \frac{1}{2} \dots \text{ ②}$

$$\text{①, ② より, } \frac{1}{4} < \frac{T}{S} < \frac{1}{2} \dots \text{ 罫}$$

【総括】

非常に丁寧な誘導がついているため, 段階的に無理なく処理ができるはずです。

【解 1】のように「変数を 1 カ所に集める」というのは有効な手段です。

この他にも,

$$x^2 - 4x + 7 = (x-2)^2 + 3 \quad (\text{平方完成})$$

$$\sin(\alpha + \beta) + \sin(2\alpha + \beta) = 2 \sin \frac{3\alpha + 2\beta}{2} \cos \frac{\alpha}{2} \quad (\text{和積公式})$$

$$a \sin \theta + b \cos \theta = \sqrt{a^2 + b^2} \sin(\theta + \alpha) \quad (\text{合成})$$

$$\sum_{k=1}^n k {}_n C_k = \sum_{k=1}^n n {}_{n-1} C_{k-1} \quad (\text{変数倍} \rightarrow \text{定数倍})$$

など, 数学の分野を問わず, 散らばっている変数を 1 カ所に集めるということの大切さを感じてほしいのと同時に, 各分野における「変数集約術」をきちんと身に付けておく必要があるでしょう。

本問の場合はそれが思いつかなかつたとしても, 1 文字ずつ動かしていくという予選決勝法という方針もあるので, 何とか確保したいところでしょうが, それは外野からの意見で, 当事者である受験生は試験場補正によってアタフタしかねません。

(2) が確保できたのであれば, (3) まで勢いに乗って完答したいですね。

(3) の難易度自体は整数問題としては極めて標準だと思います。